

## 知財の広場

### 最近よく耳にする言葉「メタバース」ってどういう意味

メタバースとは、英語の「Meta」（超越した）と「Universe」（宇宙）を組み合わせた造語です。コンピューターによる立体映像の技術を使い、自分の分身「アバター」で他の参加者と交流したり、仕事をしたりすることができます。仮想空間の中で他のユーザーと交流したり空間を共有したりできる点や、現実世界とリンクした社会活動や経済活動が行える点は、メタバースならではの長とされています。この「メタバース」という言葉についてJ-PlatPatを用いて商標調査をしてみたところ、2021年から2023までの3年間に119件の商標出願、商標登録がありました。まさに注目されている言葉だということが分かりました。

「メタバース」の仮想空間上でライブイベントなどに参加できるという特徴を活かした試みもなされています。昨年、12月にメタバース空間上でG7知財庁長官級会談が行われました。日本国特許庁が議長となり、G7参加国の特許庁長官級が一堂に会した会談です。会談は、メタバース空間で実施され、参加者がオリジナルアバターを通じて発言をするなど、より臨場感のある会議となりました。会談の最後には、G7サミットの開催地となった広島県の厳島神社を再現したメタバース空間で写真撮影が行われました。



写真撮影（厳島神社エリア）  
出典：特許庁ホームページ



虚がメタバースに特設している「神奈川県「つながり発見、パーク」」（提供先）（写真番号：1220896）  
出典：「神奈川県「つながり発見、パーク」

「メタバース」を活用して社会課題の解決を試みる取り組みも広がっています。神奈川県ではひきこもり当事者への支援として昨年11月からメタバース内で社会参加を促すイベントが開催されました。

西脇 吉徳（知財ナビゲーター）